



「たれゆえそう」の里づくり

たれゆえそうとは、えひめあやめの別名です。3月も終わりごろになれば美しい、うすむらさきの花をつけますが、実は日本にも局所的にしか自生しない花。絶滅が危惧される品種で、レッドデータブックに登録されています。知るひとぞ知る、その保護運動が各地で地道に行われています。この応募作品は、その保護運動の内容をさらに高め、**地域全体の歴史・文化を踏まえた地域づくり**に資するよう、計画提案するものです。

南限は、宮崎県小林市の生駒高原です。その生態から、一般のあやめのように湿田に多いのではなく、むしろ東、北斜面の乾燥地に多いといわれます。以前は足で踏んづけても誰も気にしなかったほどでしたが、高度経済成長時代の終わりごろからでしょうか、絶滅を危惧する声も高まってきたというわけです。

なぜ絶滅の危機か？ といいますと、かつて大陸と地続きだった時代に北方から日本に上陸したと推測されるように、もともと寒い地を好み、したがって温暖化が進むほど南限地域の限界的な生息を脅かされる、愛らしく、また、有名なほど人々は無断で持ち帰る、かつてのような下草刈をしなくなって彼らの自生環境が悪化している、などが上げられています。

小林市における保護の現況をみますと、本当に熱心な方々による様々な啓発運動のほか、自生する周辺の草の下刈りなどが主なもののようです。できることならば、半世紀以前がそうであったように、草刈、萱の活用などがあれば、あえて保護とは言わずとも、ごく自然な形での生態保全に役立つだろうとも考えられます。

全く視点を変えて、今日の間中山地、棚田、休耕田など、山地と里の境目の荒れた状況を考えますと、その活用を考えるべき時期に来ています。このための最も優れた土地利用は、私は、**教育空間としての整備**だと考えております。

そこで、提案です。

休耕田には再び水を取り入れ、湿地化してトンボが舞う里にします。均一な杉やヒノキの植林地の一部はもとの雑木林にします。萱は屋根の素材に、草は牛馬の飼料にします。というわけで、要するに、昭和初期までのたたずまい、**生活様式の復元**を図ることによって、以下のような多様な価値を実現しようとするものです。

考えてみますと、弥生時代以降の農耕文明というものは、二千年以上の長い伝統をもつものです。それが、たったここ数十年で、石油という便利なエネルギー資源や食糧の輸入によって、貴重な土地を放置する現在の姿になりました。私たちは、今や長い伝統を顧みるべき時期にさしかかっています。

長年かけて築き上げた文明の形には、風土と調和した必然性が存在するものです。それを無視して築かれた近代文明の様々な矛盾が吹き出しています。荒れた教育現場、花粉症、

石油資源の枯渇問題などなどですが、このような課題を受ける形で、再び伝統的な里山、里地の見直しが叫ばれるなか、その象徴としての里山の復元は、一地方の事業というより、オーバーに言えば国家的に取り組んでもいいプロジェクトです。

私の提案は、ともかく以前の姿を復元することです。したがって、牛馬を使った農業、田植え、稲刈り、山での薪採りなど、かつての仕事のやり方や生活を踏襲しますので、経済的には今はペイしないでしょう。そこは、補助金等、若干の助成策が必要かもしれません。ただ、自立策として、教育空間として都会の子供を受け入れるとか、新たな観光資源としての整備を行います。

一定のゾーンを指定して、そこだけは許可を得た車しか入れません。その代わり馬車が走ります。子供たちは、水泳し、魚を採り、植物採集をし、チョウやトンボを採り、その間テレビからも教科書からも開放されます。季節によってはメジロ捕りもします。それには地域文化の担い手である、地域のマイスターの協力が必要です。現代っ子にそんな無茶な！と思われるかもしれませんが、しかし、神秘に満ちた自然を相手に、何かを探す子供の目は輝いてきます。冒険に満ちた数週間の思い出は、自然との出会いとともに彼らの人生に貴重な恵みをもたらすでしょう。なによりも、日本の地域風土とともにある価値観、感性の培養になり、地域を愛し、長じては郷土愛、愛国心へと連なっています。

多様な価値とは、自然教育、希少植物の保全、伝統文化の復元などですが、そのため最もふさわしい場所が「たれゆえそう」の里づくりではないでしょうか。なぜならば、熟度（豊富な知識の蓄積）熱意ある人物の存在、周辺環境等のいずれからも優れているからです。

この里づくりは、単に完成した地域の提供というに留まらず、懐妊期間を含むプロジェクトの形成・発展過程にこそ重要な意味があると考えます。夢・アイデア提案制度に顔を出させていただき、建設コンサルタンツ協会九州支部のご高配に感謝申し上げますながら提案提出をいたします。

(1 5 . 2 . 3)

